

国営越後丘陵公園の雪遊び「えちごスノーワールド」 ～雪資源を活かした公園利用～

細井和生* 1、新保聖志* 1

1. はじめに

国営越後丘陵公園（以下、「当公園」という）は、北陸地方の広域レクリエーション需要に対応するため、全国17カ所にある国営公園の一つである（図1）。本州日本海側唯一の国営公園として、新潟県長岡市において「天に学び、地に遊び、人と集う、越の里」のテーマのもと、平成元年度より事業を進めている。



図1 全国の国営公園位置図

当公園は、関越自動車道長岡IC及び、長岡南越路スマートICからほど近い丘陵地帯（全体面積約400ヘクタール、標高80～260メートル）にあり、良好な交通条件にある。また、北陸自動車道大積スマートIC（仮称）と長岡ニュータウン連絡道路も事業化されており、交通アクセスが更に向上することが期待されている（図2）。



図2 位置図

そして、雪国の風土を活かし、来園者が四季を通じて広々とした園内で遊び、色とりどりの花を楽しみ、里山の自然や暮らしを体験するための施設となっている。園内の各施設はユニバーサルデザインを基本とし、誰もが安全・快適に利用していただけるように整備を進めている。

管理運営にあたっては、園内の豊かな自然環境や地域の観光資源を活かしながら地域のボランティア等と連携し、里山の自然環境とのふれあいの機会の提供や、イベントの充実、効率的な管理運営等を進めている（図3）。



図3 全体構成図

当公園では、「チューリップまつり」「香りのぼらまつり（春・秋）」「あじさいまつり」「オータムフェスティバル」「Xmasキャンドルナイト」「えちごスノーワールド」「早春フラワーフェスティバル」など、四季折々の大型イベントを開催している。

本稿では、その中でも雪資源を活かした公園利用について、地域と連携した様々な取り組みを実践している「えちごスノーワールド」を中心に報告する。

* 1 国土交通省 北陸地方整備局 国営越後丘陵公園事務所 工務課

2. これまでの整備概要

2. 1 供用の経緯

当公園は、昭和62年度に長岡市川西地域西部の丘陵地を国営公園候補として決定し、平成元年度より事業に着手した。平成3年度より健康ゾーンの工事に着手し、平成10年7月30日に一部29ヘクタールを開園。その後整備を進め、平成15年度には健康ゾーン約120ヘクタールが概成した(写真1)。里山フィールドミュージアム(以下、「里山FM」という)は、平成15年度より整備に着手し、令和6年4月までに217.3ヘクタールを開園した(写真2)。



写真1 健康ゾーンの主な施設 (ばら園・遊具エリア)



写真2 里山FMの主な施設 (古民家・あそびの里)

2. 2 入園者数の推移

平成10年度の開園以来、入園者数は増加傾向で推移し、平成27年度に過去最高の年間55万人を記録した後、平成28年度からは減少傾向であり、令和2年度は新型コロナウイルスの影響で入園者数が大幅に減少した。

その後、令和3年度より回復傾向に転じ、令和5年度には開園25周年を迎えるとともに累計入園者数1000万人を達成した(図4)。なお、冬季は夏季に比べて利用可能区域が限定され集客が少なくなるため、冬ならではのイベント等を工夫して開催し、集客アップを目指している。

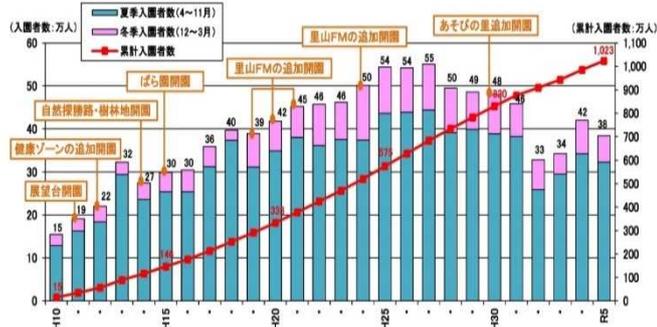


図4 入園者数の推移

3. 冬季の利活用

3. 1 えちごスノーワールドの意義

スノーリゾート新潟への貢献を目指して、手軽に雪遊びを満喫できる公園として、「えちごスノーワールド」(冬季の愛称)の魅力を発信し、冬季利用の集客力を高めることにある。

3. 2 開園形態

当公園は、積雪地域にあることから、夏季(グリーンシーズン)と冬季(ホワイトシーズン)に区分した運営を行っている。冬季は利用可能区域が限定されるため入園料は無料で開園している(表1)。

冬季閉鎖エリアは里山FM全域、健康ゾーンの一部(ばら園、遊具、越の池など)である。

表1 開園形態

開園形態	期間	開園時間	入園料	駐車料(平日)	駐車料(土日祝日)
夏季	4~10月	9:30~17:00	有料	有料	有料
	11月	9:30~16:30	有料		
冬季	12~3月	9:30~16:30	無料	無料	無料

※こども(中学生以下)の入園料は通年で無料

3. 3 冬季のイベント

(1) Xmas イベント (12月)

12月上旬のサンセットオープンでは、18時まで延長開園を実施している。公園のシンボルツリーにイルミネーションを点灯する“きらめきの大ケヤキ”などを日没のマジックアワーに楽しむイベントである。

12月中旬~下旬のXmasキャンドルナイトでは、16時から20時まで有料で開園している。屋内では地元愛好会によるゴスペルなどのXmasステージショー、屋外では“きらめきの大ケヤキ”の周囲にキャンドルを灯すなど、クリスマスムードを演出し人気を博している(写真3)。

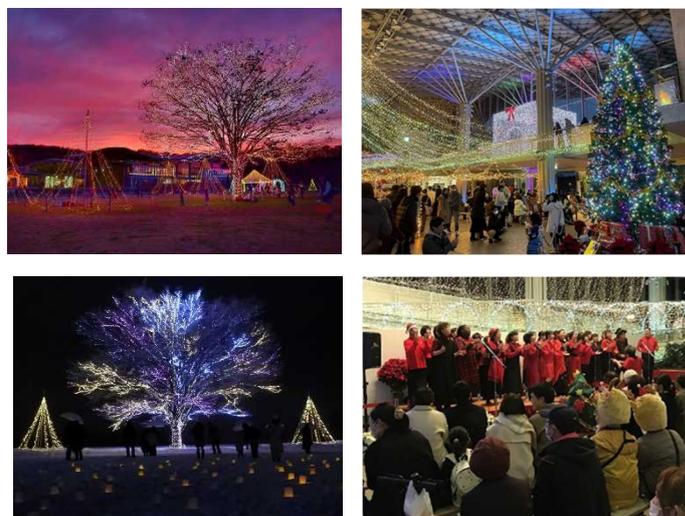


写真3 Xmas イベント

昼間の利用促進のため、屋内施設「花と緑の館」においては、昼間でも鑑賞できるイルミネーションを設置し、土日には「クリスマスマーケット」やクリスマスにちなんだクラフト体験を開催している。

Xmas イベントの更なる誘客拡大に向け、過年度アンケートを分析した結果、年齢構成では若年層の利用が多く、グループ構成では、カップルやファミリー層の利用が多いことがわかる（図5）。

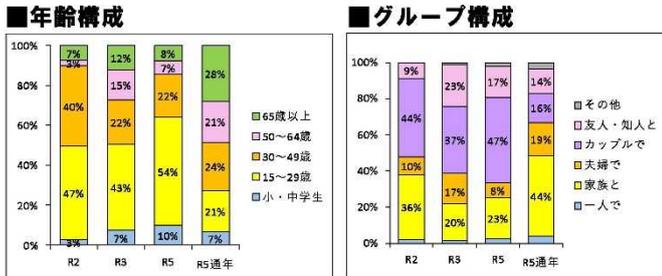


図5 Xmas 期間の来園者の年齢構成、グループ構成

この結果を踏まえて、令和6年度のコンセプトは「雪のイルミネーション遊園地」とし、「メリーゴーランド風イルミネーション」「光るゴーカート（変形自転車のイルミネーション）」「大ケヤキの空中ブランコ風の装飾」といったフォトスポットを企画している。

カップルやファミリー層をターゲットに新たなコンテンツを加え、集客と話題発信の強化を行う予定である。

(2) えちごスノーワールド（1～2月）

銀世界の中で雪遊びやソリ、クロスカントリースキーなどが楽しめる「えちごスノーワールド」を開催している。「北陸地方最大級」の長さを誇る150メートルのソリ専用ゲレンデや緩やかな斜面を活かした初級のスキーゲレンデ、雪遊び広場など、手軽に雪遊びを楽しむことができる（図6）。



図6 ゲレンデコース

土・日曜・祝日には、無料のソリ用ロープリフトを運行するほか、スノーシューコースやクロスカントリースキーコースなど大人から子どもまで楽しめるウィンターアクティビティを充実させ、冬季の健康増進の場を提供している（写真4）。



写真4 ソリゲレンデ

各種スノー用品の貸し出しも行っており、手ぶらで雪遊びを満喫できる。平日は地元の保育園・小学校のレクリエーション、土日はファミリー層に利用されている（写真5）。



写真5 雪に親しむソリ授業

そのほか、エア遊具や木製遊具、ボルダリングなどを備える屋内遊具施設「KIDSステーション」では、天気が悪い日でも子供たちが安心して遊ぶことができる（写真6）。



写真6 屋内遊具施設「KIDSステーション」

令和5年度は少雪のため、芝ソリゲレンデや屋根付きふわふわドームを開放し、子ども達の外遊び環境を確保するなど工夫しながら運営している（写真7）。



写真7 芝ソリゲレンデ、屋根付きふわふわドーム

(3) スノートレイルランナーズカップ (2月)

スノーシュー常設コースとプロトレイルランナーがプロデュースした国営公園初のトレイルランニングコースを利用したレースである。4キロコースは3歳から気軽に参加でき、8キロコースは初心者から経験者まで幅広く楽しむことができる（写真8）。

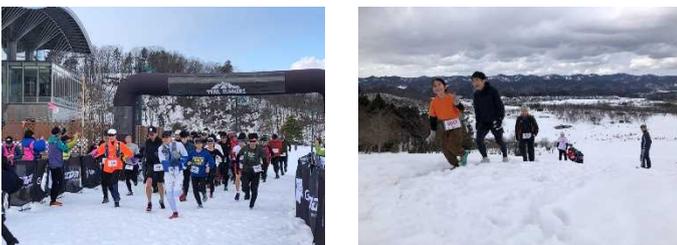


写真8 スノートレイルランナーズカップ

(4) 早春フラワーフェスティバル (1~4月)

新潟県が誇る早春の花々をリレー形式で屋内展示する「アイスチューリップ展」「クリスマスローズフェスタ」「アザレア展」「シャクナゲ展」「雪割草展」、雪解け後の「雪割草まつり」「かたくり百万株まつり」が開催され、訪れる時期によって多種多様な花々を間近で観賞できる。また、スノーワールド期間とも重複させ、雪遊びにきた子ども連れファミリー層にも、新潟の花ブランドの魅力を訴求し、花の少ない時期においても園芸ファンの誘客を行っている（写真9）。



写真9 アイスチューリップ・雪割草の屋内展示

4. 冬季の地域連携イベント

(1) 長岡花火ウインターファンタジー (11月)

「長岡花火ウインターファンタジー」は、令和6年度で8回目の開催となる。花火をみる機会の少ない冬季に地域ブランドの代表格である「長岡花火」と当公園のイルミネーションが一夜限りコラボする地域連携イベントとして発展してきた。この花火はクリスマスソングに合わせたスターマインなどが打ち上がり、長岡花火と当公園の魅力を発信し、地域活性化にも貢献している（写真10）。



写真10 長岡花火ウインターファンタジー

(2) えちご雪割草街道 (3~4月)

雪割草は、新潟県に春の訪れを告げる、代表的な草花である。その群生地を、保護・公開している「当公園（約23万株）」「雪国植物園（約50万株）」「大崎雪割草の里（約30万株）」「本山村田妙法寺（約30万株）」の4カ所を結んだルートを「えちご雪割草街道」と名付け、3~4月の花の見頃には周辺地域と連携したスタンプラリーを開催し、地域の交流人口拡大を図っている。

5. 今後の課題

雪資源を活かした公園の通年利用を目指し、冬季は「えちごスノーワールド」として、ゲレンデ利用を展開している。しかし、近年は少雪傾向によりゲレンデ開放が難しい年もあり、雪不足が来園者数減の主要因となっている。今後、雪資源を活かしながら、雪不足に左右されない公園を目指し、以下の取り組みを検討している。

① 屋内遊具施設の更なる利用促進

② 屋内花修景及びXmasフォトスポットの強化

また、雪資源の有効活用として、夏季の冷房や、雪遊びなどへの利用を目的とした雪室の導入を検討している。

6. まとめ

当公園のこれまでの冬期間の取り組みは、新たな魅力の向上につながっている。しかし、温暖化や雪不足に伴い、今まで出来ていたイベントが開催できていない現状もある。今後も安全・安心をモットーに、来園された皆様に満足して頂けるよう、魅力あるイベントの企画や施設の整備に取り組んでまいります。